コース・シラバスから見た「観光日本語」科目の概要・目標・内容
——選択必修科目コースを有するタイの大学を事例に——

森　康眞

1. はじめに

日本人観光客・旅行者のタイ国への入国者数は、1,277,638名(2007年度)で、タイにおける外国人入国者数の中で、第2位を占める規模となっている(タイ国観光・スポーツ省観光開発局)。翻って、日本人の外国渡航先を見ると、タイは第6位を占めている(社団法人日本旅行業協会)。こうした社会的背景とともに、タイの高等教育機関の日本語コースに在っては、「ホテル」「観光」「ガイド」「エアライン」等の観光関連日本語科目が開設されているところが多いと言われている。また、タイ国内の大学で日本語コースを有する大学は89校(2008年8月現在)で、タイの大学総数(112校)の79.46%を占めている(国際交流基金バンコク日本文化センター)。日本語コースの形態は、主専攻、副専攻、選択必修、自由選択等に類別されるが、実態としては、複数のコースを運営している場合もあれば、何れかのコースのみの場合もある。因みに、主専攻課程を設置する大学は34校で、日本語コースを有する大学全体の38.20%を占めているが、見方を変えれば、残りの約6割は主専攻課程以外のコース形態であることを示唆していると言えよう。

本稿は、複数ある日本語コースの内、主に観光系学科に属する選択必修科目コースにおける「観光日本語」のコース・シラバス(科目履修概要)の考察を目的とする。考察に際しては、コース・シラバスの基幹となる教育内容に焦点を置いて、各大学における同科目の「概要・学習目標・学習内容」の比較検討を通じて、その全体的特徴、或いは、その個別的傾向を探究することに留意した。教育内容面での比較的考察は、「観光日本語」科目における教育活動の実践的内容面の質・量的な検証及び検討を促進する契機になるとともに、「観光日本語」科目のコース・シラバスの構想・策定・実施の各段階における有効的改善や各段階の統合的向上に資すると思われる。

2. 選択必修科目コースを有する大学

本稿では、筆者の収集資料及び聞き取り調査により、選択必修科目を有する大学を、国立シラパーコン大学ペッチャブリー校(SU)、国立ラチャパット大学(RU)であるバーンソムデットチャオプラヤー(BSRU)、プラナコン(PRU)、スアンドゥシット・フアヒン校(SDU)、ウボンラーチャターニー(UBRU)、ワライヤロンコン(VRU)、私立大学のトゥラキットバンディット(DPU)、カセームバンディット(KBU)、サイアム(SU)、スィーパトゥム・バーンケン校(SPU)とした。即ち、国立大学1、国立ラチャパット大学5、私立大学4の総計10大学を比較検討の対象とする。

2.1 選択必修科目コースの履修制度

選択必修科目コースは、所属学科内の規定の開設科目から選択することで、所定の単位数を履修しなければならない科目群を指す。上記 10 大学の履修制度は以下の通りである(表 1)。

表 1　大学別履修一覧(2008 年度後期)

国立大学・1校		私立大学・4校			
	SU	DPU	KBU	SU	SPU
JGP	基礎日本語1	日本語1	日本語1	日本語1	日本語1
	基礎日本語2	日本語2	日本語2	日本語2	日本語2
	中級日本語1	日本語3	日本語3	日本語3	日本語3
	中級日本語2			日本語4	
JSP	●観光サービス日本語	●ホテルサービス日本語 ●ガイド用日本語 ●聞く･話す日本語 ●日本語読解 ※3 科目選択履修	●ホテル日本語 ●観光とエアライン業務の日本語	●ホテル業務日本語 ●観光業務日本語	●観光サービス日本語 ●ホテルサービス日本語 ※1 科目選択履修
単位数	15	18	15	18	12
国立ラチャパット大学(RU)・5校					
	BSRU	PRU	SDU	UBRU	VRU
JGP	基礎日本語1	基礎日本語1	基礎日本語1	基礎日本語1	基礎日本語1
	基礎日本語2	基礎日本語2	基礎日本語2	基礎日本語2	基礎日本語2
	会話日本語1	会話日本語1	会話日本語1	会話日本語1	会話日本語1
	会話日本語2	会話日本語2	会話日本語2	会話日本語2	会話日本語2
JSP	●観光日本語1 ●観光日本語2	●観光日本語1 ●観光日本語2	●観光日本語1 ●観光日本語2	●観光日本語1 ●観光日本語2	●観光日本語1 ●観光日本語2
単位数	18	18	18	18	18

修得単位数を見ると、12 単位から 18 単位までと若干隔たりが見られるが、その隔たりの一つの要因は「一般目的日本語(JGP)」の科目数で、私立 DPU・KBU・SPU の 3 科目(9 単位)とそれ以外の他大学の 4 科目(12 単位)の二つに大別される。もう一つの数的隔たりを生む要因には、「特定目的日本語(JSP)」の履修科目数の差違が挙げられる。即ち、国立 SU・私立 SPU の如く 1 科目履修のみと国立 RU・5 校及び私立 KBU・SU の 2 校のように 2 科目履修となっている点である。JSP の中で 3 科目履修となっている DPU は、公式的には副専攻課程とされるが、観光・ホテル学科の在籍生に対しては実質的に「選択必修科目」として履修が位置付けられていることから、選択必修科目コースに含める扱いとした。

2.2　コース・シラバスの定義と意義

コース・シラバス(โครงการสอน)は、講義要綱(ประมวลการสอน)やコース・アウトライン(เค้าโครงการสอน・แนวการสอน)と呼称されるもので、コースの開講日である初回に履修学生に配布する科目(コース)の概要(アウトライン)を記載したものを意味する。その存在価値は「教員と学生の契約書」と看做され、コースにおいて教員・学生の双方がすべき事項が記載され、且つ、それらを相互に遵守することが前提とされている。言わば、コースに対する双方の責任感を高める機能を果たしている。記載事項としては、科目名・科目コード、担当教員、コースの概要・目的・目標、コース・スケジュール、毎回のコース内容、成績評価方法、教科書・参考文献、履修上の要件・

条件等の諸項目が挙げられる。コース・シラバスの意義については、担当教員からすれば、コース・デザインの構想・策定・実施を強化する役割を有するので、コースの具体的な内容を決定する推進力となる。他方、履修学生側からは、コースの学習計画を知ることで、学習活動の指針となり、コース全体に対する信頼感や安心感が得られるものと考えられている。

2.3 「観光日本語」のコース・シラバス

筆者が提供を受けた各大学のコース・シラバス(2008年度後期・12部)の内、主にタイ語で作成されたものは、BSRU(「観光日本語1・2」A4判・各2頁)、PRU(「観光日本語1・2」A4判・各6頁)、VRU(「観光日本語1」A4判・1頁)、DPU(「ガイド用日本語」A4判・5頁)の4校で、英語を主とするものは、SDU(「観光日本語2」A4判・7頁)、KBU(「観光とエアライン業務の日本語」A4判・1頁)、私立SU(「観光業務日本語」A4判・6頁)、SPU(「観光サービス日本語」A4判・3頁)の4校である。日本語で作成されたのは、UBRU(「観光日本語2」A4判・2頁)の1校のみである。タイ語と日本語の言語別による作成は、国立SU(「観光サービス日本語」)であるが、これはタイ人(A4判・4頁)・日本人(A4判・2頁)の両教員が授業を担当することに起因する。

3. 「観光日本語」の科目概要

観光日本語科目の概要(description)は「何を教えるのか」という教授内容を示す、言わば、シラバス全体の概略を表すものと解される(表2)。各大学の科目概要を見渡すと、観光実務における「場面・場所」を重視している姿勢が窺える。UBRUの無記入とSDUを除く他のRUの概要は、全て同一内容となっている。

表2 各大学の観光日本語科目の概要

	大学名	科目名	概要
国立大学	SU	観光サービス日本語	聞く、話すスキルに重点を置いて、観光業務(接客やサービス)で使われている日本語を習得する。お客様への接客とサービスも含めて、実際の場面を想定しての言葉の使い方の練習、観光地や重要なタイの文化と習慣について説明する練習をする。
国立ラチャパット大学	BSRU	観光日本語1	サービス業で使われる表現や観光客との会話を実際の場面(空港、ホテル、レストラン、お店等)を想定して、聞く技能、話す技能を練習する。
		観光日本語2	観光日本語1に引き続きいろいろな場面(サービスを提供する場所、観光地)での日本語の使い方について習得し、練習する。旅行会社での電話の話し方についても習得する。
	PRU	観光日本語1	サービス業で使われる表現や観光客との会話を実際の場面(空港、ホテル、レストラン、お店等)を想定して、聞く技能、話す技能を練習する。
		観光日本語2	観光日本語1に引き続きいろいろな場面(サービスを提供する場所、観光地)での日本語の使い方について習得し、練習する。旅行会社での電話の話し方についても習得する。
	SDU	観光日本語2	1. 基本的な文の構造を勉強する。(名詞文、動詞文、形容詞文) 2. 日本語の文法を完全にする。

	UBRU	観光日本語２	無記入
	VRU	観光日本語１	サービス業で使われる表現や観光客との会話を実際の場面(空港、ホテル、レストラン、お店等)を想定して、聞く技能、話す技能を練習する。
私立大学	DPU	ガイド用日本語	自分の国を日本語で紹介したり、バンコク都内にある主要な観光地の案内を日本語で習得する。
	KBU	観光とエアライン業務の日本語	観光中、空港での出迎え、いろいろな乗り物のチケットの購入、汽車、飛行機の予約業務、旅行会社での業務、航空会社での業務などで使う日本語を学習し、練習する。観光客にアドバイスを与えたり、観光地を案内したり、ホテルを出てから空港への見送りまでの接客サービスを日本語で学習する。
	SU	観光業務日本語	このコースは観光ガイドが会話の中で使っている語彙や表現や文の構造を聞く技能と話す技能に重点を置いて学習する。また写真や観光地の説明、発音や話し方のタイミングや接客マナーも練習する。
	SPU	観光サービス日本語	４技能の強化及び観光実務に関わる日本語の学習

次に、各大学の概要を項目化して、共通する・共通しない項目を対比的に概観する(表 3)。

表 3　項目別に見た各大学の科目概要の特徴

項目	国立大学	国立ラチャパット大学					私立大学			
	SU	BSRU		PRU		SDU	VRU	DPU	KBU	SU	SPU
接客やサービスで使われている日本語の習得	○	○	○	○	○		○		○		
実際の場面を想定しての会話や言葉の使い方	○	○	○	○	○		○			○	
聞く技能、話す技能に重点を置いての学習	○	○		○			○			○	
観光地の説明・案内	○							○	○	○	
旅行会社での業務			○		○				○		
観光実務全般									○		○
接客マナーやサービスについての知識	○									○	
タイの国、文化、習慣の紹介	○							○			
日本語の文法・文の構造						○				○	
航空会社での業務									○		
発音や話し方のタイミング										○	
４技能(聞く・話す・読む・書く)の強化											○

「接客やサービス提供の場面で使用される日本語の習得」「実際的場面での会話や言葉の使用方法」「聴く・話す技能の養成・向上」「日本語による観光地の説明・案内」等に比重が置かれていることが読み取れる。また、大学別に俯瞰すると、教授内容を広域的に捉える大学と限定的に捉えている大学の相違も見られる。何れにせよ、「場面・場所」における日本人観光客との接客・対応の際に、必要とされる日本語の知識の獲得と「話す・聴く」という技能を通じての日本語の運用力の涵養や養成が特徴的な点と言える。

4.　学習目標

観光日本語のコースの目標及び目的は、担当教員からは「授業目標」となる一方で、履修学生からは「学習目標」と捉えられるものである。

4.1 各大学の学習目標

各大学の「学習目標」は、「何が日本語でできるようになるのか」という言語行動の到達・達成目標とも受け止められる(表4)。

表4 各大学の観光日本語科目の学習目標

	大学名	目標
国立大学	SU	・自分の国や出身地について日本語で簡単に説明できる。 ・日本人観光客の伝達内容を正確にかつ的確に聞いて、要点をつかむことができる。また、理解できなかった場合には理解できるように問い返すことができる。 ・いろいろな状況において相手が不満を持たないように対応したり、改善したりできる。
国立ラチャパット大学	BSRU	・ホテル業務やエアライン業務における日本人へのサービスに関わる語彙を増やす。 ・サービス内容やホテル業務について紹介できる。
		・観光業務における日本人へのサービスに関わる語彙を増やす。 ・日本人観光客に対してサービス内容や観光地やお店について紹介できる。 ・観光地の紹介や観光客へのサービスを体験させる。
	PRU	・いろいろな場面でのサービスに関する日本語を聞いて、話せる。 ・いろいろな機会で観光客の手助けができるように日本語を聞いて、説明できる。 ・観光業務に関することについて日本語で質問したり、答えたりできる。
		・いろいろな場面でのサービスに関する日本語を聞いて、話せる。 ・電話での会話ができる。 ・観光業務について日本語で質問したり、答えたりできる。
	SDU	・日本語のことばをどのように発音するのかを知る。 ・基本的な日本語の文型を理解する。 ・日本語の挨拶の言い方や会話を覚える。
	UBRU	・ホテルやガイドで使うフレーズを覚える。 ・ホテルやガイドで使う基本的な会話の習得。
	VRU	無記入
私立大学	DPU	・ガイドに必要な日本語の語彙や表現を正確に覚えられる。 ・ガイドに必要な日本語を聞いて、話して、読んで、書ける。 ・日本語でバンコク都内にある主要な観光地を案内できる。
	KBU	無記入
	SU	・学生はこのコースを勉強した後で観光ガイドとしての日本語が話せるようになる。
	SPU	・日本語の観光業務における機能と伝達能力を高める。 ・日本人観光客に的確な情報を即時に提供できる。 ・正しい発音ができる。 ・最低限の日本語の文法と働きに焦点をおいて基本的に必要なフレーズを学習する。 ・より多くの語学練習法を行い、興味を惹きつけ、参加度を高める。

各大学の言語行動目標は、学習を通して習得されるべき日本語能力(言語要素)と日本語運用力(言語使用)の「あるべき像」を映し出しているが、「語彙」「表現」に止まらず、「話す・聴く」技能を駆使しつつ、日本人観光客との接客に相応しい言語・非言語を含めた対人コミュニケーション能力を重視する「実用的日本語能力」が要求されていると言っても過言ではない。

4.2 学習目標から見られる目標概念

無記入のVRU・KBUを除いて、各大学の学習目標の記述内容の性質を一般化するべく、幾つ

かの概念を規定した(表 5)。

表 5　概念別に見た学習目標

概念	学習目標
関連語彙・表現・会話・文の構造の習得	・ホテル業務やエアライン業務における日本人へのサービスに関わる語彙を増やす ・観光業務における日本人へのサービスに関わる語彙を増やす ・基本的な日本語の文型を理解する ・日本語の挨拶の言い方や会話を覚える ・ホテルやガイドで使うフレーズを覚える ・ホテルやガイドで使う基本的な会話の習得 ・ガイドに必要な日本語の語彙や表現を正確に覚えられる ・最低限の日本語の文法と働きに焦点をおいて、基本的に必要なフレーズを学習する
必要な情報の提供	・自分の国や出身地について日本語で簡単に説明できる ・サービス内容やホテル業務について紹介できる ・日本人観光客に対してサービス内容や観光地やお店について紹介できる ・日本語でバンコク都内にある主要な観光地を案内できる ・日本人観光客に的確な情報を即時に提供できる
日本人との伝達授受能力	・日本人観光客の伝達内容を正確にかつ的確に聞いて、要点をつかむことができる。また理解できなかった場合は理解できるように問い返すことができる ・いろいろな場面でのサービスに関する日本語を聞いて、話せる ・ガイドに必要な日本語を聞いて、話して、読んで、書ける ・日本語の観光業務における機能と伝達能力を高める
業務の遂行能力	・観光業務に関することについて日本語で質問したり、答えたりできる ・学生はこのコースを勉強した後で観光ガイドとしての日本語が話せるようになる ・日本語の観光業務における機能と伝達能力を高める
日本人への対応	・いろいろな状況において相手が不満を持たないように対応したり、改善したりできる ・いろいろな機会で観光客の手助けができるように日本語を聞いて、説明できる
正しい発音	・日本語のことばをどのように発音するのかを知る ・正しい発音ができる
その他	・より多くの語学練習法を行い、興味を惹きつけ、参加度を高める

総合的に見ると、1)観光に関する語彙・表現・会話・文の構造(構造文型)の習得、2)日本人観光客への必要な情報の提供、3)日本人観光客との伝達・授受能力、4)観光業務における業務遂行能力、5)日本人観光客への対応、6)正確な発音、7)その他、の七つが浮かび上がった。4.1 で言及した、求められている「実用的日本語能力」の具体的指標を示していると考えられる。

4.3　大学別に見られる傾向

学習目標の概念から一目瞭然なのは、観光関連の語彙・表現・会話・文の構造の獲得に最も重点を置いているのが特徴となっている点である(表 6)。2 番目には、日本人観光客との伝達・授受能力及び対応力が、3 番目には、日本人観光客への必要な情報の提供能力が、4 番目には、業務の遂行能力に比重が置かれている。これらは、言語能力や社会言語能力や社会文化能力を根底とす

る包括的な学習目標と呼べるもので、言語学的観点を十分に内包していることが察せられる。

表 6　概念別に見た各大学の傾向

概念	国立大学	国立ラチャパット大学					私立大学		
	SU	BSRU		PRU		SDU	UBRU	DPU	SU	SPU
関連語彙・表現・会話・文の構造の習得		○	○			○	○	○	○	○
日本人との伝達・授受能力	○			○	○			○		○
日本人への対応	○			○					○	○
必要な情報の提供	○	○	○					○		
業務の遂行能力				○	○					○
正しい発音						○				
その他										○

5.　学習内容

コース・シラバスにおける「授業計画」又は「授業予定」に記載されている内容事項を「学習内容」として捉えたい。学習内容が「何を学ぶのか」という解釈に立てば、これは 3. の科目の概要で触れた「何を教えるのか」と表裏一体の関係にあるものと解される。

5.1　各大学の学習内容

無記入の BSRU を除く各大学の学習内容は、カリキュラムの要素(学習範囲・学習順序)を包摂した学習活動的側面の具体的な詳説となっている(表 7)。

表 7　各大学の観光日本語科目の学習内容の項目

		学習内容	
	大学名	中間前	中間後
国立大学	SU	初級後半の文法項目の学習 「みんなの日本語　初級Ⅱ(上)」L26～30 話すテスト	国、地理、季節、教育等の説明、観光業務の日本語、業種別の日本語 話すテスト
国立ラチャパット大学	BSRU	無記入	無記入
		無記入	無記入
	PRU	自己紹介、助数詞を使った疑問文、レストランでの食事や買い物の時の Q&A、いろいろな場所に関する Q&A、観光地へ行く途中での Q&A、小テスト	空港への出迎えと見送り、スケジュールの説明、ホテルのサービスの説明、ベルボーイの仕事、両替、タイでの注意事項を説明する、小テスト、会話テスト
		電話によるホテルの予約、チェックイン、客室への案内、客室の中の案内、非常口の説明、小テスト	地図の説明、自由行動の際の支払い方法の説明、ツアー全体のスケジュールの説明、一日のスケジュール説明、お寺での服装や文化、習慣の説明と紹介、小テスト、会話テスト
	SDU	既習の文型の復習、新出文型の学習、漢字の学習、単語テスト	既習の文型の復習、新出文型の学習、漢字の学習、単語テスト
	UBRU	ホテルチェックイン、チェックアウト、ルームサービス、小テスト	ガイドお出迎え、ガイド予定、小テスト、ホテルコンテスト
	VRU	自己紹介、挨拶(空港、バスの中)、ホテル(チェックイン)	レストラン(タイ料理の注文、作り方)、問題(病気)、観光(観光地、遺跡)
	DPU	自己紹介、敬語(尊敬語)、ガイド用表現、	タイについて、ツアーの予定、ツアープ

私立大学		ガイドの自己紹介、空港からホテルまで、ホテルのチェックイン、タイについて、話すテスト	ログラムの作成、レポートのプレゼンテーション
	KBU	接客用語、日本についての知識、自己紹介とスケジュール、タイについての説明、ホテルの説明、ツアーの移動中、漢字、話すテスト	タイ料理、買い物、王宮、エメラルド寺院、暁の寺、エアライン業務についての知識、予約、販売業務、グランドホステス、エアーホステスの業務、漢字、話すテスト、小テスト
	SU	空港での出迎え、ホテルチェックイン、観光に出かける、観光中、昼ごはん、観光から帰る、チェックアウト、見送り、話すテスト、ロールプレイによる話すテスト	観光地の説明(エメラルド寺院、王宮、バンコクと水上マーケット)、タイについて、話すテスト、ロールプレイによる話すテスト
	SPU	あいさつ、入国審査、荷物の受け取り、ツアーの問い合わせ、ツアーの予約、航空券の予約、空港のチェックインカウンター、敬語、漢字の学習、聴解、読解問題	空港の免税店、お客様のお迎え、ホテルで、ツアーの説明、ツアーの案内、ツアー先でのトラブル、打ち合わせと報告、漢字の学習、聴解、読解問題

各大学の学習内容を概観すると、教室活動の部分的側面も散見されるが、総体的に言えることは、具体的・実際的な場面・場所・状況を想定しての実用重視の立場が明確となっている。即ち、日本人観光客の空港での出迎えから空港への見送りまでの一連の日本語での業務を学習内容の基本としつつ、その一連の過程における各場面でのやりとりを学習する形式を採っている。加えて、タイ国内の観光地やタイ料理等に関する日本語の語彙知識や説明も適宜取り入れている。

5.2 学習内容の特徴

学習内容を全体的に俯瞰した上で、幾つかの視点を立てて、分類を行った(表 8)。

表 8　学習内容別に見た分類

初級文法・漢字	・既習文型の復習 ・新出文型の提示 ・敬語(尊敬語) ・敬語(謙譲語) ・漢字の学習		
観光業務	ガイド	旅行会社	その他
	・ガイド用表現 ・自己紹介 ・空港での出迎え ・空港での見送り ・スケジュールの説明 ・空港からホテルまで ・ホテルで ・ツアー(ホテルを出てから戻るまで) ・地図の説明 ・レストラン ・買い物 ・問題への対処 ・打ち合わせと報告 ・タイの観光地について ・タイでの注意事項	・ツアーの問い合わせ ・ツアーの予約 ・航空券の予約	・あいさつ ・接客用語 ・日本についての知識 ・タイについて知識
	・電話による予約		

ホテル業務	・チェックイン ・ベルボーイ(部屋の案内と説明) ・チェックアウト ・ルームサービス ・両替		
エアライン業務	・入国審査 ・荷物の受け取り ・空港のチェックインカウンター ・空港券の予約と販売 ・グランドホステスの業務 ・エアーホステスの業務 ・エアライン業務の知識		
その他	筆記テスト	口頭テスト	その他
	・単語テスト	・話すテスト ・会話テスト ・ロールプレイによるテスト ・ホテルコンテスト ・ツアープログラムのプレゼンテーション	・聴解問題 ・読解問題 ・ツアープログラム作成

観光業務においては、観光・通訳ガイドが主要となっているが、旅行会社社員、ホテル従業員、航空会社職員の業務も見られる。職種・職域が多岐に亘るのは、観光業に従事する業務・実務の職務内容の範囲の広さを反映しているものと解釈できる。

5.3 各大学の学習内容の傾向

学習内容の大学別の傾向を総合的に見比べると、観光業務や実務における観光・通訳ガイドの職種に重点を置く大学が殆どと言える(表 9)。この理由には、ガイドの職位がタイ政府観光庁によって認証される国家資格になっている社会的背景が指摘できるかもしれない。ガイドの職務に

表 9　大学別に見た学習内容

		国立大学	国立ラチャパット大学					私立大学			
		SU	PRU		SDU	UBRU	VRU	DPU	KBU	SU	SPU
初級文法・漢字		○	○		○			○	○		○
観光業務	ガイド		○	○		○	○	○	○	○	○
	旅行会社										○
	その他	○					○	○	○	○	○
ホテル業務			○	○		○					
エアライン業務									○		○
その他		○	○	○	○	○		○	○	○	○

関連する接客用語や表現、日本とタイに関する日本語による知識も重要と考えている。併せて、学習内容に直結する訳ではないが、様々なテストや課題の実施を通して、学習の成果を高める努力も行われている。その一方で、表 1 の JGP と JSP とのレベルの段差を埋める必要性もあることから、学習内容として、初級文法や漢字に力点が置かれているのも特徴となっている。換言すれば、学習レベルと到達レベルの不均衡の是正努力である。初級文法や漢字の学習は、既習文型や

未出の初級文法の学習を通じて、日本語の基礎を固めることが応用に繋がると判断するものと解され、これには、敬語の学習も必須項目として含まれる。観光業務に見られる日本やタイに関する歴史・文化的知識の学習は、専門的語彙の習得・定着を図る狙いもあると推察される。

6. 終わりに

全体的・部分的考察を通して、各大学の選択必修科目における「観光日本語」のコース・シラバスには、科目概要・学習目標・学習内容の各面で異同や較差が見られるものの、日本人観光客に適切に接客できる「実用的コミュニケーション能力」の養成と観光業務や実務に適確に対応できる「実用的観光日本語の運用力」の向上が課題であることは間違いない。コース・シラバスの理念・開発・実践的側面—教育機関の教育方針や教育課程を示す科目概要、教育(実施)計画に基づく学習水準や到達規準を策定する学習目標、指導・学習計画に裏打ちされた学習活動を骨子とする学習内容—を考慮に入れつつ、求められる「観光日本語」に三思九思、且つ、実践躬行したい。最後に、ご協力をいただいた教員のかたがたに謝辞を申し上げます。

付記：本稿は、筆者が所属するスィーパトゥム大学(バーンケン・キャンパス)の 2008 年度・第 2 期学内教員対象調査研究助成金(ทุนอุดหนุนงานวิจัยสำหรับบุคลากรภายในปีการศึกษา 2551 ครั้งที่ 2)を受けて実施した調査研究プロジェクト(『タイ国の大学における日本語・選択必修科目コースの「観光日本語」の教材研究［การศึกษาภาษาญี่ปุ่นเพื่อการท่องเที่ยวในรายวิชาเลือกบังคับสังกัดสถาบันอุดมศึกษาในประเทศไทย］』)の一部を基本に、加筆・修正の上、まとめたものである。

参考文献

鴬生ふさ子・舛見蘇弘美・トムソン木下千尋(1997)「オーストラリアにおける観光業用の日本語コースのデザインと実践」『JALT Journal』第 19 巻、第 2 号、全国語学教育学会、pp.260-270

国際連携を活かした高等教育システムの構築プロジェクト

〈http://www.istu.jp/iproject/kaigaikenshu-special.htm#syllabus〉2010 年 2 月 22 日

社団法人日本旅行業協会

〈http://www.jata-net.or.jp/data/stats/2009/05.html〉2010 年 2 月 20 日

タイ国観光・スポーツ省観光開発局

〈http://www.tourism.go.th/2009/th/home〉2010 年 2 月 20 日

独立行政法人国際交流基金バンコク日本文化センター

〈http://jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2009/thailand.html〉2010 年 2 月 20 日